

# 平成25年度放射線安全取扱部会年次大会 (第54回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

## 平成25年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成25年11月14日(木)、15日(金)の2日間にわたり、平成25年度放射線安全取扱部会年次大会(第54回放射線管理研修会)が、鹿児島市民文化ホール(鹿児島市)で開催された。実行委員会では、参加者の動向を把握し、次年度の参考とするため、恒例のアンケート調査を行った。アンケートは、一般参加者を除いた参加者総数359名のうち、171名から回答を

得たのでここに集計結果を報告する。

### 1 年次大会について

今回の年次大会の内容について、プログラムごとに5段階評価(5点=良い、1点=悪い)、感想・コメントをお願いした。各プログラムの評価と平均点を図1に示す。

プログラム全体としての評価点は4.0であ

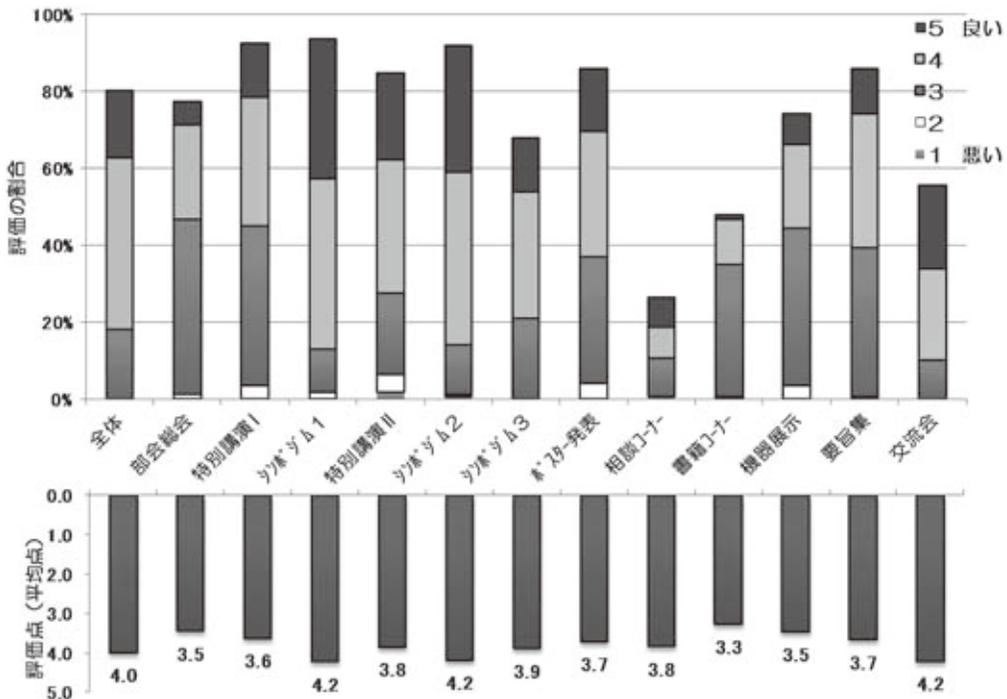


図1 年次大会プログラムに関するアンケート結果

## 主任者 コーナー

り、3点未満のプログラムはなく、全体として良いという評価であった。コメントでは、「良かった」「参考になった」という肯定的な意見が全コメント（46件）の2/3を占めた中、少数ではあるが、シンポジウムの内容、会場への交通の不便さ、開催時期に対する意見等もあった。今後の参考にさせていただきたい。

### 1-1 部会総会

5段階評価で1～5のいずれかの点を付けた回答の割合（有効回答率）は77%であり、時間帯の設定もあろうが不参加の割合が20%に近く、評価点も低い。今回は、各支部からの報告を短時間であるが各支部長が口頭で行ったため、「各支部の活動がよく分かった」との好評コメントもあり、いつもの形式的な代表者の報告だけではなく顔の見えるメリハリのある報告が求められているようである。要旨集での報告だけではなく、スライドを活用して要点を説明する手法も取り入れたらどうであろうか？ 部会員の興味を引く企画で、参加者を増やしたいものである。

### 1-2 特別講演Ⅰ「放射線障害防止法関係の最近の動向—原子力規制委員会への業務移管ほか—」

有効回答率は92%と高いが、内容についての評価は低い。放射線規制室は同じ内容を様々な所で講演しているため、「同じ時期に複数回聴講している」「マンネリ化している」とのコメントが多くあるが、初めて聞く人にとっては、規制当局の話を直接聞けることが本大会で重要であるとの認識がある。今後規制室は、講演を行わないようにするという噂も聞くが、本年次大会で唯一規制室長の講演があるとなれば、注目度も高くなる。放射線規制室が、放射線安全取扱部会をどのようにとらえているかによるが、他学会等との差別化が必要であろう。

### 1-3 シンポジウムⅠ「母親、子供たちに伝えたい放射線教育」（一般公開）

評価点4.2（最高点）は、シンポジウム1、シンポジウム2、交流会の3つである。有効回答率は94%とこれも最高点であり、コメント（全47件）もほとんどが好評であり、「参考になった」「役に立った」等である。放射線教育はこれまで何回も取り上げてきているが、受ける対象者によってそれぞれ適した対応が必要である。今回は、福島第一原発事故後に一般の人々に放射線について語った経験を紹介していただき、母親、子供目線はどの立ち位置なのかを感じてリスクコミュニケーションに役立ててもらいたい。放射線取扱主任者のこれからの仕事として展開するならば、これからも年次大会等を通じて情報発信を続けていく必要があるのではないだろうか？ ただ、次の特別講演も含めて一般公開としたが、参加者は少なかった。宣伝媒体や現地の一般の方々の関心対象を事前に調査する等の工夫が必要である。

### 1-4 特別講演Ⅱ「明治維新と現代日本」（一般公開）

有効回答率は、85%、評価点は3.8であった。「面白かった」「興味深かった」「博識と話術が素晴らしい」等のコメントが多かったが、「話が飛びすぎ」「まとまりがない」等の違った側面での負評価もあった。放射線とは直接関係のない話題であり、次の交流会に参加されない方がおそらく参加されなかったためか不参加率が13%と多くなった。

### 1-5 シンポジウムⅡ「福島放射線環境—その現状と課題—」

評価点4.2、有効回答率92%と高い。「福島の現状がよく理解できた」「様々な話題を面白く聞くことができた」「教育訓練で利用したい」等の好評なコメントが多かった。ただ、プログラム構成上、3時間にわたり休憩がないまま行

い、パソコンのトラブル等も発生したため、この点で負評価のコメントも多く見られた。この話題を放射線安全取扱部会が取り上げるべきかどうかを問うコメントもあった。次項 2-1 の今後のテーマの例に挙がっていないので多くの参加者の意見は分からないが、検討が必要であろう。

### 1-6 シンポジウム 3「次世代 RI 施設へのロードマップ」

評価点 3.9 であるが、有効回答率 68% と低い。大会最後のプログラムでもあり、参加者が少なくなったのも原因であろう。「各施設改修の具体的な話が聞けてよかった」「今後の RI 施設の在り方について勉強になった」「参考になった」とのコメントと「非密封以外の施設も知りたい」等の要望もあり、今後の検討事項となる。

### 1-7 ポスター発表

評価点 3.7、有効回答率 86% であった。ポスター紹介については、概ね好評であったが、紹介時間が超過し、昼食時間が短くなったため負評価が数件あった。ポスター発表自体は、「質、量ともに充実している」「参考になった」とのコメントだが、会場について、「暗い」「狭い」が非常に多く寄せられた。会場設定については、実行委員会側の配慮が必要である。

### 1-8 相談コーナー

評価点 3.8、有効回答率 26% である。相談コーナーを利用した人が少ないため有効回答率は低い。相談した人からのコメントには、「疑問点が解決できた」「親身に聞いていただいた」等、好評である。設定時間等を工夫すれば、更に利用者は増えると思われる。

### 1-9 書籍コーナー

評価点 3.3、有効回答率 48%。「多種類の書籍を紹介して欲しい」「公費で割引購入したい」などのコメントがあった。日本アイソトープ協

会内で検討していただきたい。設置場所等のコメントはなかったが、40% が立ち寄っていないので有効回答率が低い。

### 1-10 機器展示

評価点 3.5、有効回答率 74%。入り口近辺の狭い通路であったが、各社が測定器等の機器を展示し、説明員も配置していたため、「実際に機器を見ることができよかった」「種々の機器の情報が得られ参考になった」等のコメントが多かった。

### 1-11 要旨集

評価点 3.7、有効回答率 86%。教育訓練用の資料として重要視されているコメントが多く、「スライドの原稿も欲しい」との要望もある。数年前から CD での発行やホームページからのダウンロードも検討しているようであるが、検討状況を知らせて欲しい。分科会報告（＝ポスター発表）の要旨が、ポスター発表の要旨と別になっているので分かりにくい。

### 1-12 交流会

評価点 4.2、有効回答率 56%。参加者は、200 名程度であった。「多くの人と交流できた」「美味しい食べ物、飲み物が十分でした」と好評であった。他学会等と比べて、料理が十分だったことが、負評価がない理由のようである。

## 2 放射線安全取扱部会の活動について

### 2-1 興味のあるテーマ

アンケート結果は、回答数 10% 以上の項目について最近のデータとともに図 2 に取りまとめた。アンケートで取り上げたテーマの中で、参加者の興味のあるテーマは、教育訓練をはじめとして、ほぼ変化はない。震災後に“教育訓練”“放射線利用”が増えている。その他の項目として、“これからの RI 施設”“利用促進”“放射化物”“管理状況の実例（立入検査、定期検査の経験談等）”“外国人に対する健康診断”

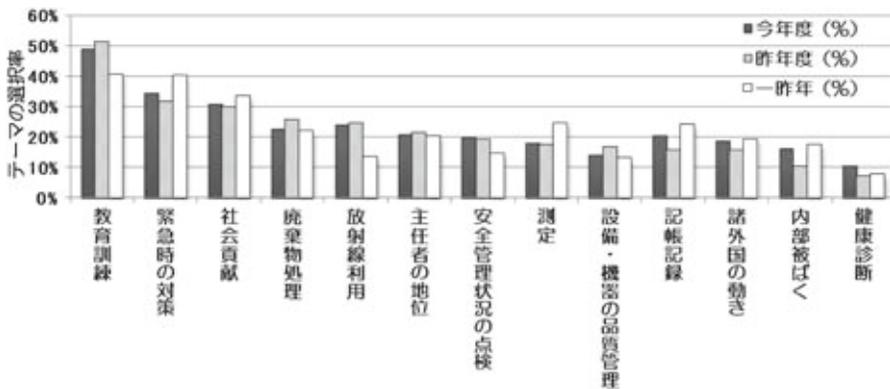


図2 安全取扱部会活動の興味あるテーマの推移（10%以上のテーマ）

が寄せられた。ここでは“福島県の放射線の現状”“除染”との希望はなかったので、興味があるのかないか分らないが、放射線管理の実務が知りたいということかもしれない。

### 2-2 支部が主催する教育訓練講習会について

開催頻度は、適当77%、少ない4%であった。「各支部間で内容が統一されているのか?」「発生装置が増えているので、内容も増やしてほしい」「事業所内教育訓練の講師のための教育訓練を開催しては?」「土曜日にも開催してほしい」のコメントがあった。講習内容は、適切75%、不適切1%であり、概ね適切である。

### 2-3 年次大会の各支部持ち回りについて

持ち回り開催については、92%が良いという意見である。地方都市で開催して欲しいという意見が多いが、地方が続くと（例えば、鹿児島市 → 札幌市）続けて出張するのは厳しいとの意見もある。回る順番を工夫する必要もある。地方開催は、交通の便や講師のスケジュール設定等、参加者への配慮がどうしても必要となるが、地方の意識を高揚するためには、有効な方法であろう。

### 2-4 その他

地方開催と関連するが、「交通の便を考えて

スケジュールを決めてほしい」「安全管理講習会等と実施時期が重なるので、差別化を図ってほしい」「J-PARC 事故にも触れるべき」「見学会を企画して欲しい」「医療関係についての企画を希望」「実際の管理に役立つ情報の発信」といった要望があったので、ここで紹介しておく。

## 3 参加者について

### 3-1 性別・年齢

性別は、約80%が男性である。年齢構成は、30歳代16%、40歳代36%、50歳代28%であり、40歳代が多い。

### 3-2 所有免状・身分について

所有免状、身分については、それぞれ複数回答があり加算して集計している（以降同じ処理）。所有免状は、第1種が70%を占める。身分については、管理職34%、一般職52%、教育研究職51%、医療従事者10%であった。約半数が一般職であり教育研究職である。

### 3-3 主任者選任、日本アイソトープ協会会員、放射線安全取扱部会会員

主任者の選任状況は、選任が67%、非選任27%であり、約3分の1は非選任である。回答

者の66%が日本アイソトープ協会の会員であるが、非会員も28%存在する。これは、今回が初めての参加者もいるので、今後も会員数増に向けて勧誘が必要である。安全部会への加入率は48%であった。

#### 3-4 参加頻度について

毎年参加が53%、隔年7.6%、時々14%、初めて21%である。各支部が担当となって地方で開催するため、遠隔地への出張が続くと参加できないとの意見も多数あったが、約半数は毎年参加いただいている。初めて参加した方が、今後毎年参加できるように、大会の充実が必要である。

### 4 参加者の所属事業所について

#### 4-1 事業内容

参加者の事業内容は、医療機関8%、教育機関42%、研究機関19%、民間企業31%であり、教育機関（大学等）が多く、次いで民間企業であり、比較的小規模の民間企業からの参加が多いことが分かる。

#### 4-2 使用形態

ほとんど（82%）が許可使用である。届出使用（6%）、使用していない（5%）、販売業（4%）、機器メーカー（3%）と続く。

#### 4-3 施設

非密封RI施設が71%、密封RI36%、発生装置22%、設計認証機器6%、非破壊検査1%と続く。複数施設を有する参加者もいるが、密封、発生装置も20~30%存在することを考慮に入れる必要がある。

#### 4-4 所在地

関東27%、近畿21%、中部15%、九州12%、中国・四国12%、東北5%、北海道2%である。九州（鹿児島市）での開催であるので、

九州、中国・四国からの参加者が、東北、北海道よりも多いが、これは地方開催地特有の現象であろう。

#### 4-5 放射線業務従事者数

20人以下26%、21~40人13%、41~60人10%、61~80人4%、81~100人6%、101~200人12%、201~300人6%、301~500人3%、501~1000人2%、1001人~1%。半数は、放射線業務従事者60名以下の事業所である。

#### 4-6 選任主任者数

選任主任者1人34%、2人30%、3人8%、4人8%、5人以上10人まで4%、無回答16%である。

### 5 終わりに

今回の年次大会は、九州支部の担当3回目である。福岡県、長崎県、鹿児島県の開催で次の開催は、沖縄県か？ と勝手に噂している。今回の鹿児島市民文化ホールは、最初に予定していた場所の予約が取れないということで、急遽選んだこともあって、県庁の近くながら市街から遠く交通の便が悪い所で、参加者の皆さんにはご不便をお掛けしました。広報不足もありました。臨時バスも追いつかなかったようです。地方開催だとこのような問題もあり、今後は配慮していく必要があります。アンケートのコメントにも多く意見をいただき、ありがとうございました。本稿では、全てのコメントを紹介することはできませんでしたが、皆様の意見は、次の開催地である北海道支部に引き継ぎ、次の参考にさせていただきます。

参加していただいた皆様、アンケートを記入していただいた皆様には、実行委員会からお礼申し上げます。

(杉原真司)